

料金後納  
郵便

ゆうメール

# やまもり通信

NO. 260 2026.3 NPO法人恵那山みどりの会



定例作業日（2／24）に雑木林窯枯末を伐採しました

竹林整備とタケノコ掘り大会 4／19（日） 辻原竹林  
2026年度通常総会 5／17（日） 中央公民館2-1

今回は森の学校はっばっば、定例作業の記事はありません。

P5に「当会の今後の運営について」が掲載されています。是非お読み下さい。

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索

<https://takaminecloud.mizunoinfo.com/4DCGI/MID2/>

料金後納  
郵便

ゆうメール

# やまもりの通信

NO. 260 2026.3 NPO法人恵那山みどりの会



定例作業日（2/24）に雑木林窯枯末を伐採しました

竹林整備とタケノコ掘り大会 4/19(日) 辻原竹林  
2026年度通常総会 5/17(日) 中央公民館2-1

今回は森の学校はっばっば、定例作業の記事はありません。

P5に「当会の今後の運営について」が掲載されています。是非お読み下さい。

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索



<https://takaminecloud.mizunoinfo.com/4DCGI/MID2/>

## 森の風77

飛騨の匠と感性

増井一義

飛騨の大工社会はピラミッド状である。その頂点には匠と言われる工人がいて底辺には宮大工と言われる工人が多い。匠とはその時代に一人いるかないかかという貴重な工人だ。宮大工とは別に「はんば大工」「どんさく」とも呼ばれ下げすさまじくいた。あいつは腕が悪いからお宮くらいしか任せられない。との意だそうであるに聞こえが悪い。

飛騨の匠が開花したのは江戸中期だ。その技術は世界屈指であったという。何故飛騨の地で高度な大工社会が出現したのか？それは零強で貧しく年貢も収められない地であったからという。そして高山には春と秋勇壮な屋台を繰り出し高山祭がある。各地に伝わ

る屋台、山車のなかでも高山の屋台は特に優れている、と言われる。この屋台をつくったのは飛騨の匠という人もいるようだ、財力のあたる旦那衆がいる組は財にものをいわせ名のある匠につくらせた屋台もあるようだ。多くは名もない宮大工の作のようだ。

かつて昭和の大改修があった。かの組は貧しく祭りが始まると悔しい思いをしていたらしい。半端材をあつめ暇をもてあそぶ宮大工につくらせ引き揃えしに参加できるようにになった。しかし老朽化のため出せなくなった。俺んこの屋台は出来が悪く仕方ない。とあきらめていたものの祭りがはじまるとやはりつらく寄付を募ることにした。

そして現代の名工に改修依頼した。その名工は驚いたという。実に見事な作りでさぞかし名のある匠の作だという。墨書きから作者も分

かり市を挙げて調べたが該当する匠が見つからず、やはりこの屋台は言い伝え通り名もない半端大工の作だ。との結論にいたり「飛騨の匠」が世間に知らされるようになった。

では匠と宮大工の違いはどこにあるのか。現代の名工でも判らないのに素人にわかるはずもない。どうやら材を加工する技術に差はなく材を選ぶ眼力らしい。研ぎすまされた感性の違いにあるようだ。

建物の柱は東西南北に多数たてる。東側の柱は東の山から出した物を使い南側の柱は南側の山から出した材でなければならぬ。梁も桁も同様に選り抜く。この過程に最も労力を注ぐ。木が山で生きていくかの如くに。

彼らは木肌で判断できる。どうしてそのような技術を身に着けたのか。

高山で久々野の大工と酒席を共

にしたことがある。息子を大工にしたいなら中学を卒業したら俺に預けられ、というがみんな高校に行く。それでは遅いんや、いい大工にはなれん という

当時の僕にはよく理解できなかったが若いうちから木に触れていくことで感性を高め、材を加工していく工程で適材適所が判断できる。その技術を習得できるのは10代半ばまでの極めて短期間に形成できていくもののように。特に優れた感性の工人のみが「飛騨の匠」と呼ばれるようになった。  
・山村茂美 著 「高山祭」 より  
一部抜粋

令和八年最初の作業を、多少雪の残る阿木での二本の庭木伐採で始めた。

庭を形作る石積みの上にあるカイツカイブキと思われる、ちよつと癖のある低木の伐採から始めた。庭内に寝かせるため周囲を整理し、ロープ引きにより庭内に予定通り寝かせた。

二本目は10m程の杉であり、寝かせる場所が少し狭いため、5mほどのところで三本に株別れしている箇所を切り落とし、小休止を挟み、幹はロープ引きにより想定箇所へ寝かせ、昼過ぎに無事終了した。

瀬戸 広葉樹高切り伐採

一月二十一日(水) 二十二日(木)

二十三日(金) 各三名

肩を痛めたことにより昨年の六月四日で中断していたヤマザクラの高切り作業を再開した。

株別れして四方八方に枝を伸ばしたその中心を貫いているサワラ

にクライミングロープと滑車を取り付け、クライミングロープに体を預けて各枝に移動し、吊ロープを取付け吊切りを開始した。

はっぱを落としているとはいえずやはり枝先に重心がかかり気味で、屋根やアンテナに接触する状況で重心の見極めが難しい。

一日目、二日目はサワラに取り付けた滑車で。四方八方に伸びている枝の吊切りを行い処理した。

三日目はヤマザクラの横に並んで生えているスギ、サワラが支障となるので先に伐倒を行い、二本ほどチルホールで直に引き起し枝払い処理し、今回の作業を終了した。

二月二日(月) 三日(火) 各三名

残っている枝は、チルホールで直に引き起こして枝払いできる枝

森づくりだより

早川宏之

阿木 庭木伐採

一月十五日(木) 二名

四本ほどであり、前回同様サワラにクライミングロープを取付け、それぞれの枝に移動し曳きロープを取付け、枝払い処理を行なった。

枝先がなくなり今後は少し低い位置での作業となるので、自身の体を預けているサワラの上部分を切落して一日目を終了した。

二日目、サワラから離れている、ヤマザクラの幹の切落し作業を株別れ箇所順番に行い、サワラと接している幹の上部でサワラを先に切落した。

サワラと接していたヤマザクラの幹を株別れ箇所切り落とし、高切り作業の完了となった。

最後に上部、中間と切落して短くなったサワラを寝かせ、瀬戸での作業を完了した。

恵下 庭木伐採搬出

二月九日(月) 四名

前日昼過ぎまでの降雪によりし

っかり雪は残っていたが、進入路は依頼者により除雪されておりクレーン付きトラックも問題なく駐車できた。

二名は朴ノ木、ツゲ、ウツギ等の伐採処理、もう二名で玄關脇のコウヤマキの吊切りに取り掛かる。

コウヤマキの横から生えていたつる植物が、モミジからコウヤマキに絡みついている半分がこのつる植物に覆われていた。これをさき処理してクレーン付きトラックによりコウヤマキの吊切りを行った。この間にほかの庭木伐採は終了していた。

つる植物のポリウムが大きく、直接荷台に乗せられないため地上に降ろし、弦の切り離し、枝払いを行い積み込んだ。つる植物が高張り、先に伐採が完了していた朴ノ木、ツゲ等の積み込みができず、軽トラの出番となった。

結局、昼前にクレーン付きトラ

ック、軽トラ、各一回、昼食後の軽トラ一回の搬出を行い終了した。

千旦林 K氏宅の元竹林箇所草刈  
二月十二日(木) 三名

以前竹林であった箇所の草刈り作業であった。

前日の雨で湿っており足元も滑りやすかったが、枯草でもあり草茹としては楽な作業であった。しかし、ところどころ石があり、チーン、チーンという石に接触した音をお互い聞きながらの作業となった。また、元孟宗竹林であったため太い切り株も隠れており、歯を食い込ませたり、キックバックさせたりと久しぶりにハットヒヤリを経験した。

昼までの予定で開始し、隠れている切り株に躓いたり足元の良くない箇所での作業であったが、余裕で十一時前に無事作業を終えることができた。

当会の今後の運営について

理事長 河内龍一

2026年11月で当会も発足から25年となります。

初代理事長近藤愛子さんの呼びかけで、たくさん仲間が集い、活動も大きく広がりました。

森の間伐からはじまり、炭焼き、薪づくり、子どもの環境教育「はっぱっぱ」事業、各種シンポジウム実施、林野庁との「ふれあいの森」事業協定での「木曾川の上流と下流を結ぶ親子森づくり体験ツアー」、市民企画講座開催、「子どもおもちゃ手づくりフェスティバル」、「なごや環境大学」への講座開設などなど、本当に頑張ってきたという感じがします。これも偏に、会員の皆様のご支援、ご協力と、市民のご理解があればこそ思っております。

しかしながら一時は200名を超える会員数も、現在では120名程度になり、年々会員数も減少しております。会員並びに役員の高齢化が進み、活動

するにも実施スタッフを集めるにも苦戦している状況です。

これにはいくつかの原因が考えられますが、一つには、年金受給時期が後退し、勤労者の定年が延長されてきたことで、新入会員が入らなくなったこと、さらには、コロナの発生で、事業が停滞したこと、会員に高齢化で退会される方が徐々に増えたことなどがあります。一方、財政的にも、会員減や体力的にも受託作業を縮小せざるを得ない中で、徐々に苦しくなってきました。認定NPOになって、少しでも寄付を期待していたのですが、我々の努力不足もあり、一般市民からの継続的な寄付を得られず、会員の皆さんにもご負担をおかけした事を心苦しく感じておりました。

また、ここ数年、「森の学校はっぱっぱ」活動はスタッフ不足で当会が主体となつて活動することもできなくなっています。また、全体としても、活動目標を身近な環境保全にシフトしながら活動を継続してきました。当会発足時

の活動理念を思い起こすたびに、これで良いのかと苦悩する毎日です。

15周年記念講演会では「NPOの活動は楽しいものでないと継続できない」と講師の方からも言われましたが、活動を維持することに汲々としてきていることにジレンマを感じています。

つきましては、令和8年度を最後に、当会を解散したいと考えております。

木の伐採や草刈りなど今までご依頼していただいた作業については、今後別途、任意団体を作り、その受け皿としてご期待に沿えるよう検討してまいりたいと考えております。

現在、解散に向けての諸手続き、整理等調査をしておりますが、5月に予定しております総会で会員の皆様のご意見を聞きたいと考えております。

今までご支援を頂いた会員の皆様には深く深く感謝申し上げます。令和8年度の年末「市民門松づくりイベント」を最後に、当会活動を停止する予定ですが、それまで変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

2026年 3月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
1日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
8日	日	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
10日	火	9:30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
16日	月	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
22日	日	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24日	火	9:30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
25日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	

4月イベントと森の学校の予告

日	曜日	行事内容	会場	備考
19日	日	竹林整備とタケノコ掘り	辻原竹林	

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。  
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。  
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある  
 ご意見などをお寄せください。  
 関係の深い記事など通信に記載します。  
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会  
 理事長 河内 龍二  
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13  
 (TEL・FAX 0573-65-1366)  
 13:00~16:00(月・土・日・祭日休み)  
 メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp

～<sup>ねが</sup>希望をともに～

恵那山みどりの会は  
 緑豊かな里山づくりをめざし  
 木の肉をすの その利用として  
 炭焼や しいたけの原木をつくります  
 種拾いや 植樹をします

未来を担う子どもたちのために  
 森の学校は「ほっほ」を開きます  
 自然をとりもどしたいという人々の願いは  
 強まっています

経済優先の社会と別水  
 自然とともに生きる 豊かさを  
 求められているのです

恵那山みどりの会は  
 そういふ人々と共に  
 生きたいと 考えています

文・書 太田光昭

## 2026年 4 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
5日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
12日	日	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
14日	火	9:30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
19日	日	9:30	竹林整備とタケノコ掘り	辻原竹林	会員・一般	
20日	月	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
22日	水	13:30	編集会議	事務所	会員・一般	
26日	日	9:30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
28日	火	9:30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
29日	水	13:30	企画会議・通信発行	事務所	担当・役員	

## 5 月 イベント と 森 の 学 校 の 予 告

日	曜日	行事内容	会場	備考
17日	日	2026年度通常総会	中央公民館2-1	

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。

また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。

森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。

関係の深い記事など通信に記載します。

イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会

理事長 河内 龍二

事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13

(TEL・FAX 0573-65-1366)

13:00~16:00(月・土・日・祭日休み)

メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp